

平成 22 年 2 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社C&Gシステムズ
代表者名 代表取締役社長 山口 修司
(J A S D A Q コード 6 6 3 3)
問合せ先 執行役員 管理統括部 部長
大野 聡太郎
(T E L . 0 3 - 5 7 9 3 - 8 8 0 0)

特別損失の追加発生および業績予想との差異に関するお知らせ

当社では平成21年11月11日付当社「特別損失の発生、繰延税金資産の取崩しおよび業績予想の修正ならびに配当予想の修正に関するお知らせ」にて特別損失が発生する旨お知らせいたしました。その後損失が追加発生したため、その概要をお知らせいたします。また併せて、最近の業績動向を踏まえ、前回公表いたしました通期業績予想（連結・個別）との差異について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の追加発生とその概要について

(1) 連結

① 事業再編損失の追加 50 百万円

平成 22 年 1 月 1 日付で行なった連結子会社の吸収合併に先駆け、第 4 四半期において営業拠点の統合や早期退職者優遇制度等の経営合理化を進め、事業再編損失として 1 億 20 百万円を見込んでおりました。しかしながら、早期退職者数が当初の予想よりも増加したことから、特別退職割増加算金が 53 百万円上回り、また一方で営業拠点の統合にかかる移転費用等が 3 百万円予想より下回りました。これらの結果、事業再編損失の合計は 1 億 70 百万円となりました。

② 固定資産臨時償却費の追加 39 百万円

当社が吸収合併を行なった連結子会社のうち 1 社のソフトウェア資産(販売対象ソフトウェアの開発費)において、償却見合いの販売数量予測高を変更し減価償却費を修正いたしました。この結果、固定資産臨時償却費として 39 百万円が追加発生いたしました。

(2) 個別

関係会社株式評価損の追加 1億27百万円

当社が吸収合併を行なった連結子会社2社の業績悪化に伴い、両社の株式について将来の回収可能性について検討し、帳簿価額と時価の差額について減損処理を行いました。しかしながら、当初の業績予想からさらに着地見込みが下回ることが判明したため、さらなる減損処理が必要であるとの判断から、第4四半期において追加で40百万円の減損損失を計上いたしました。また、当該子会社のうち1社の当期業績見通しを勘案し、第4四半期において当該子会社に対し投資損失引当金を計上いたしました。さらに87百万円を追加で引き当てることといたしました。

この結果、関係会社株式評価損の合計は16億25百万円となりました。

2. 通期業績予想の修正（平成21年1月1日～平成21年12月31日）

(1) 連結業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	2,543	△629	△608	△1,171
今回予想 (B)	2,493	△639	△601	△1,258
増減額 (B-A)	△49	△10	6	△86
増減率	△2.0%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2008年12月期)	4,132	△8	△11	△503

(2) 個別業績予想

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	116	13	11	△1,487
今回予想 (B)	116	9	7	△1,629
増減額 (B-A)	0	△4	△4	△141
増減率	0%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2008年12月期)	240	129	125	△718

(3) 差異理由

① 連結業績

当社グループの主要顧客である金型関連業につきましては依然として設備投資を抑制する傾向が強く、売上高は前回予想をさらに 49 百万円下回りました。これにより営業利益も減少いたしました。売上減少に伴いハードウェアの仕入原価が減少したこと等から前回予想の 10 百万円減に止まりました。経常利益につきましては、雇用調整助成金支給等により営業外収益が増加したことから、前回予想を 6 百万円上回りました。当期純利益につきましては前述の事業再編損失および固定資産臨時償却費の追加発生等により、前回予想を 86 百万円下回りました。

② 個別業績

営業利益および経常利益につきましては、連結子会社との吸収合併にかかる外部コンサルタント費用の計上等により、前回予想を 4 百万円下回りました。また当期純利益につきましては、前述した関係会社株式評価損の追加発生等により、前回予想を 1 億 41 百万円下回る見込みとなりました。

以 上